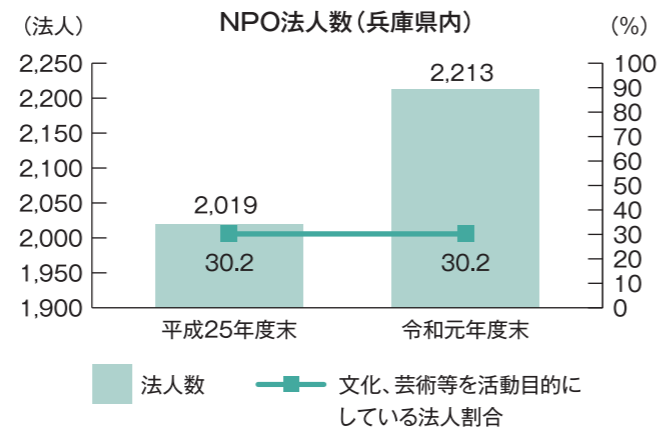


4 みんなで支え、総合的に取り組む

(1) 県民自らが芸術文化を支え育てる

■ 現状

- 本県の芸術文化の振興にあたっては、芸術文化を「する、みる、ささえる」主体となる県民の取組が最も重要であることは言うまでもない。とりわけ、芸術文化の舞台が芸術文化施設にとどまらず県内各地に拡大している今日、「ささえる」という点において、行政による支援だけでは不十分であり、個人や企業等による様々な形での支援が強く求められている。
- 県内の美術館・博物館、ホール・劇場等では、多くの文化ボランティアが活躍するとともに、県の認証を受けたNPO法人のうち、約3割が文化・芸術の振興、創造、普及等を設立目的の一つとしており、継続的な取組を進めているものもある。
- 一方、公共施設の命名権を得るネーミングライツやふるさと寄附金(ふるさと納税)、クラウドファンディングなど、従前よりも手軽な形で地域の芸術文化を支える手法が拡大しつつある。



【出典:兵庫県企画県民部県民生活課調べ】

■ 課題

- 芸術文化振興の基本は、本来「民の活力」であり、個人・民間の暮らしのなかで生まれてくる感覚や意識、より良いものを求めていく気持ちが原点にある。一方、厳しい財政環境により選択と集中が求められる中、公民の適切な役割分担を図ることが必要となってきている。
- 芸術文化に関心があっても具体的にどのようなことを学び、どのような活動をすればよいのかという情報に乏しいのが現状である。
- 文化ボランティアの固定化・高齢化が問題になっているほか、NPO法人の中には人的・資金的基盤が弱いところも多い。
- コロナ禍の中、従前どおりの企業の文化事業への協賛やネーミングライツの拡大を望むことが難しい状況にある。

■ 展開方向

- 県民全体で芸術家を支え育てるために、県民が気軽に芸術文化に触れ、学ぶことのできる機会の提供等を通じ、芸術文化を能動的に鑑賞し、自ら積極的に芸術家を支え育てようとする鑑賞者のすそ野の拡大に取り組む。
- 文化ボランティア等の活動の活発化に向けて支援を行うとともに、本人の自己実現ややりがいの向上にもつながら文化ボランティアの資質向上に取り組む。また、芸術文化施設の運営に際しても地元住民の参画を促し、その声を反映させる。
- 地域の芸術文化を支える主体として、企業に対してメセナの継続的な実施を求めるとともに、ふるさと寄附金やクラウドファンディングなど、個人からの支援を得る手法についても積極的に活用する。
- 行政としては、人材育成や発信の場づくり、交流の機会づくり、施設運営への支援など、芸術文化振興の基盤づくりを担っていくといった役割分担が必要である。

■ 主な取組

① 芸術家を支え育てる目を持つ観客の育成

- ・ 作品の背景等を知ることができるプレレクチャー公演や文化セミナーの開催
- ・ 芸術文化や歴史について深く学ぶことができる講座の開催

② 県民等の参画と協働の促進

- ・ ひょうごボランティア基金による地域の文化ボランティア活動等への支援
- ・ 社会教育施設等で活躍する文化ボランティアの資質向上
- ・ 芸術文化施設の運営委員会等への地域住民の参画
- ・ 一般県民や関係者、庁内関係部局に向けた「芸術文化振興ビジョン」の周知・啓発

③ 企業メセナ、ふるさと寄附、クラウドファンディング等の促進

- ・ ネーミングライツの拡大や公演等への民間資金の導入
- ・ ふるさと寄附やクラウドファンディングの拡大

(2) 県民、団体、企業、行政等の各主体の連携体制を強化する

■ 現状

- 兵庫県の芸術文化振興にあたっては、県の芸術文化担当部局と社会教育・文化財担当部局、学校教育担当部局、関係文化団体、国、市町、芸術文化施設、企業等、芸術家、学校等、NPO法人、文化ボランティアなどの関係機関等が、様々な場面において連携・協力を進め、連携した取組を進めることが不可欠である。
- 本県においては、様々な芸術文化団体や芸術家が、兵庫県芸術文化協会や地域の総合的文化団体に集うことにより、相互に連絡・連携をとりながら様々な活動を展開しており、それが本県の強みの一つともなっている。
- 文化庁の京都移転等を契機に、芸術文化分野における関西広域連合・関西各府県の取組も活性化しており、東京における共同イベントの開催や共通するテーマによるパンフレットの作成など、連携が一層進みつつある。

■ 課題

- 常に現状を見直しながら、行政内・行政間において、より総合的な芸術文化行政を推進できるよう、効果的な推進体制を維持していくことが必要である。また、多くの県民が県の行っている芸術文化振興施策について十分認識していない状況にあることから、県民に対するPRにも留意する必要がある。
- 芸術文化団体に属することなく個人として活躍する芸術家が増加する一方で、後継者不足や高齢化などに悩んでいる芸術文化団体もある。
- 新型コロナウイルスなどの感染症や近年頻発する災害など、緊急時に芸術文化活動を継続するためにも、地域や分野をまたいだ連携が望まれている。また、ICT化への取組など、芸術文化施設間で従前以上の連携と情報共有を図ることができる体制を整備する必要がある。
- 東京オリンピック・パラリンピックやワールドマスターズゲームズ関西2021、大阪・関西万博など国際的なイベントの開催が次々に予定される中、国や関西広域連合と連携した事業展開や情報発信がますます重要となっている。

■ 展開方向

- 「芸術文化立県ひょうご」の実現に向け、兵庫県の強みと弱みを十分に把握するとともに、芸術文化関係者にとどまらず、観光や産業、関係者や一般県民を含めた、幅広い層の結集をめざした取組を進める。また、芸術文化団体のさまざまな活動を多角的に支援するとともに、芸術家への支援機能を有する県芸術文化協会等を中心に、緩やかな芸術文化団体間・芸術家間の連携・協力体制を構築する。
- 阪神・淡路大震災や新型コロナウイルス感染症など災害等における経験を、今後の災害時の芸術文化活動の継続につなげるため、必要な教訓を収集・活用していく必要がある。
- 芸術文化振興の基盤となる財源を、多様な手段により確保する。
- それぞれの設置目的や役割分担を認識しつつ、総合的かつ継続的に芸術文化の振興に取り組むため、知事部局と教育委員会の連携をさらに強化する。また、県内市町や関西広域連合構成府県等との協調を図り、より効率的で効果的な芸術文化施策の展開を図る。

■ 主な取組

①相互連携を支えるプラットフォームの整備

- ・ 芸術文化関係者にとどまらず幅広い層を集めた文化懇話会の開催
- ・ 美術館・博物館やアートイベント主催者相互の連携の推進
- ・ プロデュース力向上・ICT活用・新型コロナ対策等に係る施設マネジメント講座等各種研修の実施
- ・ 市町ホールが連携して公演等を企画する取組への支援
- ・ ICTとリアルな場面を組み合わせたプラットフォームの構築
- ・ 阪神・淡路大震災や新型コロナウイルス感染症など災害等における教訓の収集と活用
- ・ 一般県民や関係者、庁内関係部局に向けた「芸術文化振興ビジョン」の周知・啓発

②芸術文化振興のための財源の確保

- ・ 芸術文化振興基金等基金の確保
- ・ 文化庁、(一財)地域創造等の支援・助成事業の活用
- ・ ネーミングライツ、ふるさと寄附金、クラウドファンディング等民間資金の活用

③国や市町、関係団体との連携体制の確立

- ・ 「アートde元気ネットワークひょうご」等を活用したアートイベント等の地域間連携の推進
- ・ 緊急事態時における県市協調事業の実施
- ・ 関西広域連合や創造都市ネットワークを活用した事業の実施

5 ポストコロナ社会への対応

■ 現状

- 新型コロナウイルス感染症の拡大は、社会経済活動とともに芸術文化活動にも大きな影響を与えている。活動の継続・再開に向けた懸命な支援や取組が行われているが、二度にわたり緊急事態宣言が発令されるなど、依然コロナ禍が収束しない中、催物開催制限の延長、社会全体の活動自粛が続いている。
- 新しい生活様式を定着させ、感染拡大防止と経済再生の両立を図ることが求められるなか、(公社)全国公立文化施設協会が示した「劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」(令和2年9月18日改定)においては、客席の配席(収容率)について、「来場者による大声での歓声、声援、唱和等がないことを前提としうる公演については、感染防止対策を総合的に講じた上で、収容定員までの配席数(収容率100%以内)とすることが可能」とされた。
- 一方、緊急事態宣言の再発令に伴い内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室長が発出した「緊急事態宣言に伴う催物の開催宣言、施設の使用制限等に係る留意事項等について」(令和3年1月13日改定)においては、緊急事態宣言の発令が行われている特定都道府県で開催される催物について、「屋内にあっては収容人数の50%以内の参加人数にすること」とされている。
- 公演や展覧会など通常の芸術文化活動に影響を及ぼしている中、インターネットサービスを活用した動画配信の取組が一気に進むなど、新たな芸術文化の創造・発信手法も展開されつつある。
- 域内観光や地方への移住、家庭や地域での自由時間活用の拡大など、分散型の新たな社会行動の動きも起こりつつある。

■ 課題

- ガイドラインによる一定の要件を満たす公演については、収容定員までの配席数を可能とする基準が示されたが、感染拡大への懸念や観客の心情への配慮により、過度な収容定員の制限を行っている施設がある。
- 新たな挑戦や取組を始めた人が内閣府の調査によると全体の52%に上るなど、膨大に発生した「お家時間」の過ごし方の一つとして、新たな趣味の提供やオンライン配信の取組などが必要とされている。
- 地域の伝統芸能や交流イベントの開催が困難となっているほか、芸術家が公演する場や機会を十分確保できないとともに、人々が芸術文化に直接触れる機会が減少している。
また、学校においても行事の減少等により青少年が芸術文化に親しむ機会が減少している。
- 新型コロナウイルスなどの感染症や近年頻発する災害など、緊急時に芸術文化活動を継続するためにも、地域や分野をまたいだ連携が望まれている。
また、ICT化への取組など、芸術文化施設間で従前以上の連携と情報共有を図ることができる体制を整備する必要がある。

■ 展開方向

- コロナ禍で浮き彫りとなった施設の安全性確保についても、ガイドラインに沿った定員までの収容増を図っている施設での取組事例の情報共有を進めるなど、より多くの鑑賞機会の確保に努める。
- ICTを活用した新たな創造・発信の手法を発展させるため、必要な支援を引き続き行うとともに、動画配信から収益を得る方法や効果的な動画発信手法の開発や研修、配信された動画等を後世に伝えるための情報整理・アーカイブ化など、新たな展開を進める。各拠点施設においても、動画配信等の取組が求められる。
- 県下各地域において多彩な芸術文化に感動できる環境を創造するとともに、本物の芸術文化に触れることが、感性や人間性の涵養にも重要であるため、施設や学校等において芸術文化に直接触れる機会を増加させる。

- 阪神・淡路大震災や新型コロナウイルス感染症など災害等における経験を、今後の災害時の芸術文化活動の継続につなげるため、必要な教訓を収集・活用していく必要がある。

■ 主な取組

①ガイドラインを踏まえた感染防止対策の徹底と円滑な施設の運営

- ・ 来場者による大声での歓声、声援等が想定されないクラシック音楽・演劇・伝統芸能等の公演や式典は収容定員まで配席可能であるなど感染状況に応じたガイドラインの趣旨を徹底
- ・ 県立芸術文化センターなどガイドラインに沿って定員までの収容を図っている施設における具体的な取組の情報発信
- ・ ガイドラインを踏まえた感染防止対策の徹底と収容者数の適切な設定
- ・ 兵庫県新型コロナ追跡システム等を活用した、万一の場合の感染拡大の防止

②動画配信等新たな創造・発信手法の展開

- ・ 動画配信やオンラインを活用した芸術文化創造手法の展開
- ・ 動画配信から何らかの収益を得る方法の開発
- ・ 動画等を後世に伝えるための情報整理・アーカイブ化

③ICT等を活用した多彩な芸術文化情報の発信等【再掲】

- ・ ホームページ、SNSなど、媒体の特性を考慮した情報発信
- ・ インターネット上でのバーチャルミュージアムの運営
- ・ 芸術文化施設が開催する講習会やセミナーなどを、オンラインを通じて配信
- ・ 若い人の能力や感性を生かした配信事業の支援
- ・ 県芸術奨励賞受賞者等の動画を制作・配信するアーティストバンク構築事業
- ・ 青少年リモートレッスン人材育成事業による専門的なレッスンを受ける機会の提供

④芸術家等が地域へ出向くアウトリーチ活動の推進【再掲】

- ・ 県民芸術劇場による優れた芸術文化公演の提供
- ・ 兵庫芸術文化センター管弦楽団やピッコロ劇団等によるアウトリーチ活動
- ・ 県域文化団体による地域の学校・施設等へのアウトリーチ活動
- ・ 幼稚園や特別支援学校など、従来よりも範囲を広げたアウトリーチ活動
- ・ 美術館・博物館等における教員を対象とした解説会やセミナーの実施
- ・ アウトリーチ活動にかかる調整機能の充実とデータベース化

⑤様々な場所の芸術文化発表の舞台としての活用【再掲】

- ・ 空き店舗や空き施設等を活用した芸術文化作品の設置や公演、動画上映など芸術文化事業の支援
- ・ 県市町の文化施設等におけるロビーコンサートなど、多様な芸術文化の場の活用
- ・ 県民交流広場における芸術文化活動の推進

⑥青少年が本物の芸術文化に親しむ機会の充実【再掲】

- ・ 子ども伝統文化わくわく体験教室の実施
- ・ 兵庫芸術文化センター管弦楽団やピッコロ劇団等によるアウトリーチ活動
- ・ 県域文化団体による地域の学校・施設への訪問型の公演鑑賞機会の提供

⑦相互連携を支えるプラットフォームの整備【再掲】

- ・ プロデュース力向上・ICT活用・新型コロナ対策等に係る施設マネジメント講座の実施
- ・ 阪神・淡路大震災や新型コロナウイルス感染症など災害等における教訓の収集と活用

column ひょうごアーティスト動画配信事業

新型コロナウイルスの感染拡大による影響で、長期間による外出規制や新しい生活様式への対応が求められる中、多くの人々の間で将来への不安やストレスによる閉塞感が生まれています。

このような状況の下、人々に芸術文化を通して困難に立ち向かう勇気や明日を生きる活力を取り戻してもらおうと、兵庫県に関わりの深い新進・若手アーティストが出演・制作した動画作品を募集して、インターネット上で配信し、多くの人々が芸術文化に触れられる機会とアーティストの発表の場を提供します。



クラシック音楽をはじめ、モダンダンスや絵画、彫刻、陶芸など、様々なジャンルの第一線で活躍する兵庫県にかかわりの深いアーティスト約80組の作品がご自宅で鑑賞できます。

公益財団法人兵庫県芸術文化協会 公式YouTubeチャンネル

つながろうアート で検索

<https://www.youtube.com/channel/UCqjt14fkAfoKQpgI5n5r1Vg>